

病院のお仕事いろいろ

その1 患者さんの自尊心を守り、治療をサポート

糖尿病看護認定看護師

瀧川 稲子(たきかわ いねこ) 副看護師長

糖尿病看護認定看護師は、糖尿病の発症を事前に予防し、患者さんやその家族に対して、合併症を防ぎ健康な生活が送れるように生活習慣、食事指導、患者さんの生活の質の維持などを支援する役割です。徳島県では、平成5年から平成18年まで「糖尿病死亡率全国ワースト1位」を記録し、また糖尿病患者も、平成17年の厚生労働省の調査(患者調査)では、入院・外来とも「全国1位」となっており、県民の健康づくりを考える上で、「糖尿病対策」は最も重要な健康課題のひとつとなっていることもあり、糖尿病看護認定看護師の必要性が高まっています。

瀧川看護師が糖尿病看護認定看護師を目指したきっかけは、糖尿病にかかった友人の存在や、糖尿病が全身の病気を引き起こす恐ろしい病気であることを多くの人に知ってほしかったからだそうです。糖尿病は、神経(末端)・網膜・腎臓への合併症や脳梗塞・心筋梗塞を引き起こすリスクが非常に高い病気です。瀧川看護師は糖尿病看護認定看護師として、糖尿病患者さんの療養指導や透析予防指導、フットケアなどを担当しています。食事療法や運動療法などにより、糖尿病の悪化や合併症を防ぎ、患者さんの日常生活の質を低下させないように日々患者さんと向き合っています。

療養指導を行う上で重要なことは、「自分で自分の体を知り、血糖値などをコントロールすること。食事療法・運動療法を継続することの大切さを患者さんに気づいてもらうこと。」だそうです。入院時はもちろんですが、退院後の生活を見越した指導を心がけているとのこと。

また、糖尿病は慢性疾患であるため、生涯にわたり治療が継続します。患者さんが治療を中断しないよう「寝て患者さんのやる気を伸ばすこと。病院に来た患者さんをねぎらう気持ちを持つこと。患者さんや家族の視点になって考えること。」を意識して患者さんに接しているそうです。



その2 睡眠検査のスペシャリスト

臨床検査技師

中内 緑(なかうち みどり) 技師

臨床検査技師は、臨床検査を行い、医師が診断や治療方針の決定、治療判定を行う際に必要なデータを提供する仕事です。臨床検査というと、血液検査や尿検査、心電図などを想像される方が多いかと思いますが、ひとりで臨床検査といっても、その内容はさまざまです。本院でも生理検査、血液検査、細菌検査、輸血検査、病理検査など様々な検査を行っており、そのあらゆる分野で臨床検査技師が活躍しています。

中内技師の専門は睡眠に関する病気だそうです。睡眠に関する病気とは、過眠症・不眠症・睡眠時の異常行動など、睡眠に障害があることで生活に支障をきたす病気とのことです。中内技師は、PSG検査(睡眠ポリグラフ検査)を用いて、入院患者さんが寝ている間の脳波、心電図、呼吸運動、筋電図のデータを解析し、その結果を診療科の医師に提供します。医療の高度化、細分化に伴い、専門的知識を有する臨床検査技師の役割は大きく、正確な検査データの提供が求められます。「正確な検査データを提供するために、知識の裏付けは必須。日々の勉強は義務です」とのことです。

また、患者さんの協力が得られないと正確なデータが出ない検査も多いことから、日々の業務の中での患者さんとのコミュニケーションについても大切にされています。

最後に「以前は大阪の睡眠専門の医療施設に勤務してしま



したが、睡眠障害の原因は心臓であったり、脳であったりさまざまです。専門施設での限界を感じ、様々な診療科がある徳島大学病院に赴任してきました。今後はより知識を深め、睡眠で悩んでいる患者さんに、適切な診療科を案内できるように、キャリアを積んでいきたい。」と熱く語ってくれました。